

12. 農学研究科

(1) 農学研究科の教育目的と特徴	12-2
(2) 「教育の水準」の分析	12-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	12-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	12-12
【参考】データ分析集 指標一覧	12-15

(1) 農学研究科の教育目的と特徴

教育目的

佐賀大学が立地する佐賀県は、農業、有明海水産業、醸造業、製菓業、窯業などが地場産業としての長い歴史を有する。本学にはこのような地域産業を振興し、新たな地域創生を担う人材を育成する使命がある。また、社会情勢の変化により、農業分野においても他分野との境界域を超えて、医食同源、機能性食品開発、スマート農業などに代表されるように分野間の融合が進んでいる。農業分野の高度化には、理学、工学ならびに医学の知識と手法も不可欠となっている。

このような背景をもつ農学研究科の教育目的は、主たる専門分野における知識を身につけるとともに、大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の履修により、多様化及び高度化する理工学系、医学系の異分野との融合を図り、複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成することである。

教育の特徴

上記の教育目的を達成するために、5つの主コースと1つの副コースで構成されていた生物資源科学専攻を2019年度から4つの主コースと1つの副コースを置くように改組した。構成する各コースの教育の特徴は以下の通りである。

1. 生物科学コース：広範な生物資源の探索と機能解析、有用生物の育種開発、生態系における生物制御機構の解析、バイオテクノロジーによる新素材の開発等、バイオサイエンスに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースでは、遺伝子・細胞・代謝レベルから、生態系における個体レベルまで広範な領域における教育研究を実践する。生物科学を基盤とした様々な分野に関する包括的な教育研究を行うことにより、グローバル化時代に対応できる幅広い視野を持って、世界の食料・健康・環境・生物多様性などの諸問題の解決、生物関連産業の振興および生物科学の発展に貢献できる技術者・研究者を育成する。
2. 食資源環境科学コース：農学分野の中でも、特に農業工学の領域において水資源及び地盤環境等の生産基盤領域のみならず、バイオマス利活用、環境修復、IT活用に対応した専門性と先端知識を養うための教育研究を行う。本コースでは、農林水産業の生産基盤整備と環境保全、食資源に関する知識を習得し、農水産業や環境に関連する技術者・研究者となる高度人材を養成する。
3. 生命機能科学コース：農学の特に農芸化学の領域において、食品の安全や栄養化学、食品加工技術や微生物の応用等、食品の栄養健康機能のみならず、生物資源の化学的利用に関する専門性と先端知識を養うための教育研究を行う。本コースでは、生命化学や食糧科学を基礎として食品や医薬品の関連産業で技術者・研究者となる高度人材を養成する。
4. 国際・地域マネジメントコース：地域社会の基盤となるマネジメントに関する専門性と先端知識を養うための教育研究を行う。本コースでは、国際的な農業・農村振興の視点から国内外の地域社会と連携した実践教育により、農業や地域産業の育成に関わる高度人材を養成する。
5. 農業技術経営管理学コース（副コース）：高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MOT教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新たに参入する企業等における指導的立場で働く企業人、及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等を育成する。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7512-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7512-i1-1）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7512-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7512-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7512-i3-3～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学研究科では、2010年度に制定した「学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」に基づき、修士課程では「履修モデル」を兼ねた「カリキュラムマップ」を作成することで体系性を明確に示し、大学院履修案内に掲載している。（別添資料7512-i3-5）（別添資料7512-i3-1）（再掲） [3.1]
- 農学研究科では、2019年度の改組に伴って「幅広い視点に立ったものの見方考え方を涵養することが肝要である」との考えから、多様化及び高度化する理工学系、医学系の異分野との融合を図り、複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成す

佐賀大学農学研究科 教育活動の状況

- るために「大学院教養教育プログラム」から4単位以上及び「自然科学系研究科共通科目」から8単位以上の履修を義務付けている。(別添資料7512-i3-6~7) [3.3]
- 農学研究科では、大学院生が受講する授業科目について、その学問分野と水準を容易に確認して主体的に学ぶことを支援するとともに、教育組織による学問分野と水準に基づいた教育カリキュラムの体系性や順次性の検証・改善に資するために、授業科目に番号を付し、授業科目の学問分野と水準等を示すコースナンバリング制度を導入している。(別添資料7512-i3-8) [3.5]
 - 農学研究科では2013年度から、全ての大学院生に対して個人の特性や研究テーマの違いを反映させて効率よく研究指導を行うために、研究指導実施報告書を作成している。これは主指導教員が半期ごとに研究指導計画を作成し、それに従って大学院生が半期ごとに実施報告を行う形式で進めている。またこれに対して2名の副指導教員が内容を確認することも義務付けている。(別添資料7512-i3-4) (再掲) [3.1]
 - 2017年度農学部・農学研究科自己点検・評価報告書をもとに学外委員による評価を行った結果、教育水準は2017年度佐賀大学部局等評価検証結果報告書に記載の通り、相応しい水準であることが確認されている。(別添資料7512-i3-9) [3.0]
 - 教育委員会を中心としたシラバス点検体制を構築し、各開講科目のシラバスにおける「授業のテーマ及び到達目標」「学習する学生の到達目標」「成績の評価基準」の記載についての確認を、毎年度の履修登録開始期間前に適切に実施している。(別添7512-i3-10) [3.1]
 - 高度専門職業人を育成するために、学部学生に対して大学院科目先行履修制度を2018年度より実施している(先行履修者12名、11科目)。そのうち、5名が農学研究科へ進学(4名は先進健康科学研究科、2名は他大学院へ進学)しており、指導教員に対する進学後の就学状況確認では、研究に取り組む時間がこれまでより確保できたことで、その成果を早々に学会発表するなど、効果があったことを大学院農学研究科教育委員会にて確認した。(別添資料7512-i3-11) [3.3]
 - 農学研究科では、2019年度から「教育コーディネーター」を配置し、教育の内部質保証体制を構築し、教育改善及び教育機能の向上に資する業務を行なっている。教育コーディネーターの任期は2年間である。(別添資料7512-i3-12) [3.1]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(別添資料7512-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料(別添資料7512-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別添資料7512-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料(別添資料7512-i4-4)
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究倫理に関する指導については、「国立大学法人佐賀大学における公正な研究活動の推進に関する規程」第3条3項にて、学生への研究倫理教育及び啓発の実施を定めている。これに従い、毎年研究室に配属された学生に対して、研究倫理教本を用いた研究倫理教育の実施を各教員に求めており、実施率は100%である。（別添資料7512-i4-5）[4.0]
また、大学院教養教育プログラム科目として「研究・職業倫理特論」を必修科目として開講しており、研究倫理について大学院生全員が履修している。（別添資料7512-i3-6）（再掲）[4.1]
- 2019年度の改組に伴って、多様化及び高度化する理工学系、医学系の異分野との融合を図り、複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成するために履修が義務付けられた科目（大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目）では、受講生が各自の専門にとらわれることなく、理工学、先進健康科学、農学等の分野の課題について、自ら考え、専門分野の異なる学生から構成されたグループで討議を行い、共同してまとめてプレゼンテーションを行う等の授業形態をとっている。（別添資料7512-i3-6）（再掲）[4.1]
- 農学研究科では、大学院生がより多くの授業科目を履修する機会を確保できるよう、1単位の科目を多く設置し受講できるクォーター制を導入している。（別添資料7512-i4-6）（別添資料7512-i3-1）（再掲）[4.0]
- 高度専門職業人を育成するために、大学院科目先行履修制度を2018年度より実施している（2018年度は先行履修者12名・11科目、2019年度は先行履修者9名・18科目）。そのうち、2018年度は5名、2019年度は9名が農学研究科へ進学した。また指導教員に対する進学後の就学状況確認を通じて、「研究に取り組む時間がこれまでより確保できたことで、その成果を早々に学会発表するなど、効果があった」ことを、農学部教育委員会の調査により確認した。（別添資料7512-i3-10）（再掲）[4.0]
- 大学院生の能動的な学びを生み出すために、2019年度に開講された授業科目へのアクティブ・ラーニング導入率は100%である。より効果的な教育手法等の導入を支援するための反転授業やアクティブ・ラーニング等のFD講演を2019年11月にクリエイティブ・ラーニングセンター米満特任講師を招いて開催した。また、学生に対する能動的な学びを実施した効果を検証するために、アンケートを実施した結果、授業を作る意識と参加する意識が生まれ、多数の学生が教育に関する関心事を自ら学ぶようになり、能動的に取り組めた点を良かった点に挙げる学生が見られた。今後はアンケートの結果を踏まえ、学習課題や活動方法の改善を検討する予定である。（別添資料7512-i4-7）[4.1]
- 農学研究科では、週複数回授業等の導入を見据えて、2018年度からクォーター制などの学期制に柔軟に対応可能な時間割を編成し実施している。（別添資料7512-i4-8）[4.1]

佐賀大学農学研究科 教育活動の状況

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7512-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7512-i5-2～3）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7512-i5-4）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7512-i5-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学研究科では2013年度から、全ての大学院生に対して個人の特性や研究テーマの違いを反映させて効率よく研究指導を行うために、研究指導実施報告書を作成している。これは主指導教員が半期ごとに研究指導計画を作成し、それに従って大学院生が半期ごとに実施報告を行う形式で進めている。またこれに対して2名の副指導教員が内容を確認することも義務付けている。さらに、研究指導計画や実施報告をもとに、半年ごとに大学院生との面談を行い学習相談等に対応している。（別添資料7512-i3- 4）（再掲） [5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7512-i6-1～2）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7512-i6-3）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7512-i6-4～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 教育課程方針に即して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていることを確認し、必要な改善を行うことは、教育の質を保証していく上で重要であることから、毎年度、各部局で開講科目の成績評価の分布に基づいて、成績評価等の客観性、厳密性を担保するための組織的な点検を行っている。この点検を農学研究科の教育質保証専門委員会で実施しており、その実施状況は成績分布表とシラバス点検表及びシラバス点検結果報告書により確認できる。（別添資料7512-i6-3）（再掲）（別添資料7512-i6-9） [6.1]

- 成績評価に関する情報の開示として、試験問題、模範解答、配点等の開示を「佐賀大学における学修成果にかかる評価の方法と基準の周知及び成績評価に関する情報の開示に関する要項」に定めている。(別添資料7512-i6-6) [6.1]
- 農学研究科では、GPA制度を学生に周知し、「農学研究科GPAを用いた学修指導計画」に基づいて学生の履修指導を行っている。(別添資料7512-i6-7) [6.0]
- 教育委員会を中心としたシラバス点検体制を構築し、各開講科目のシラバスにおける「授業のテーマ及び到達目標」「学習する学生の到達目標」「成績の評価基準」の記載についての確認を、毎年度の履修登録開始期間前に適切に実施している。(別添資料7512-i3-9) (再掲) [6.1]
- 農学研究科では、教育の実質化をはかるための1つの方策として2018年度からルーブリック評価を試験的に導入し、2019年度より本格的な運用を開始した。コモンルーブリックによる評価結果は主指導教員が保存している。(別添資料7512-i6-8) [6.2]

<必須記載項目7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定(別添資料7512-i7-1) (別添資料7512-i6-1) (再掲)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料(別添資料7512-i7-1) (再掲) (別添資料7512-i7-2~4)
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準(別添資料7512-i7-4) (再掲)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料(別添資料7512-i6-1) (再掲) (別添資料7512-i7-1~4) (再掲)
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料(別添資料7512-i6-1) (再掲) (別添資料7512-i7-4) (再掲)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究テーマ決定に対する指導、研究計画と実施については、研究指導実施報告書を作成することとしており、各学期始めに指導教員が「研究指導計画」を記入し、学期末に学生が「研究実施報告」を記入し、それに対して「研究経過の点検・評価・助言」を指導教員が記入することとなっている。これら一連の記入内容を主指導教員、副指導教員が毎回相互確認することとしている。この研究指導実施報告書は、修士論文審査時に研究指導が適切に行われていたことを確認する根拠資料とすることを、「農学研究科における学位の授与に関する取扱要項」第4、5条で定めており、入力率は100%であることが大学運営連絡会で確認している。(別添資料7512-i3-4) (再掲) [7.2]

佐賀大学農学研究科 教育活動の状況

○農学研究科では、全ての大学院生に対して修士論文発表会において修士論文の内容の発表を義務付けており、本発表会は修士論文審査及び最終試験を兼ねている。また、教育の実質化をはかるための1つの方策として2018年度からルーブリック評価を試験的に導入し、2019年度より本格的な運用を開始した。コモンルーブリックによる評価結果は主指導教員が保存している。(別添資料 7512-i6-8) (再掲) [7. 2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料 (別添資料 7512-i1-1) (再掲)
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率 (文部科学省公表)
- ・ 入学定員充足率 (別添資料 7512-i8-1)
- ・ 指標番号 1～3、6～7 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科の一般入学試験では、大学院で学ぶために必要な基礎学力、専門分野の専門的知識及び研究遂行能力等を有しているかを、外国語と専門科目に関する筆記試験及び成績証明書によって評価している。また、各コースに対する明確な志望動機や入学後の研究意欲等を、面接試験と志望理由書によって評価している。
(別添資料 7512-i8-2)

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数 (別添資料 7512-i4-3) (再掲)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科では留学生専門講師を配置し、講義を通じて留学生の進路及び生活面などに関して支援している。(別添資料 7511-iA-1) [A. 1]

○農学研究科では、国際人材育成プログラムによって毎年外国人留学生を受け入れる(2017年度3名、2018年度5名、2019年度1名)とともに、交流協定の下で2018年

度に1名の大学院生を協定校へ留学させた。2019年度の実績に関しては2020年度中に確定予定である。(別添資料7511-iA-2) [A.1]

- さらに農学研究科では、東南アジア圏やアフリカ地区における農業生産の活性化と経済発展を両立させるため、先進農作物生産・開発・流通システムの実装整備と高度化に貢献するための「地域問題解決型佐賀農業モデル」国際人材育成プログラムの提供を計画し、その実現のために2019年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に申請して採択された。本プログラムの実施は2020年度からである。(別添資料7511-iA-3) [A.1]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 高大連携活動の一環として、理系分野に関心がある県内の高校生を対象に、「科学」を発見・探求できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけることを目的としたカリキュラムとして、2016年度より「科学へのとびら(高校1年～3年次までの3年間のプログラム)」を実施しており、農学研究科の担当教員が講師を務めている。また2018年度は「科学へのとびら」の修了生36名(5校)のうち13名が農学部を受験し、7名が入学するという成果を挙げている。(別添資料7512-iB-1) [B.0]
- 佐賀県立致遠館高等学校のスーパーサイエンスハイスクール事業において、「大学研修」を実施しており、農学研究科の担当教員が講師を務めている。また、16名が2018年度に当該校から農学部を受験するという成果を挙げている。(別添資料7512-iB-1) (再掲) [B.0]
- 佐賀県立佐賀農業高等学校のスーパーグローバルハイスクール事業において、「出前講義」や「研究活動へのピアサポート」を実施しており、農学研究科の担当教員が講師を務めている。また5名が2018年度に当該校から農学部の推薦入試を受験するという成果を挙げている。(別添資料7512-iB-1) (再掲) [B.0]
- 地域連携実践キャリア教育として、2018年度、九州圏内の企業へのインターンシップに農学研究科の学生が3名参加し、それらを「インターンシップIおよびII」にて単位化している。(別添資料7512-i4-4) (再掲) [B.1]

佐賀大学農学研究科 教育活動の状況

○農学研究科では、2010年度から社会人を対象とした「農業技術経営管理士」育成講座を開講している。本講座は、農業版のMOT (Management of Technology) として農学の科学的な知識と高度な技術を身につけ地域農業の生産基盤を継承し、その持続的かつ効率的な利用を図り、地域農業の維持と発展に貢献できるリーダー的農業者、将来のビジネスチャンスに向けて農業経営と農村地域の革新を担う経営者、あるいは農業関連分野への新規参入を目指す企業人等の育成を目的としている。今までの修了者数は、2016年度から2019年度までそれぞれ3名、12名、5名、5名であった。(別添資料 7512-iB-2~3) [B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○2018年度は2019年1月に、標準版ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成にかかるFD講演会を実施すると共に、標準版TPにかかるアンケート調査を実施した。農学研究科におけるTPの作成率は簡易版が100%であり、標準版は27.8%である。

(別添資料 7512-iC-1) [C.1]

○自己点検・評価の結果(設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む)を踏まえた取組の計画に着手している。具体的には、「積極的にリーダーシップがとれる」学生を輩出するよう指摘されており、地域農業の維持と発展に貢献できるリーダー的農業者の養成を目指す、農業技術経営管理学コース(副コース)の受講を農学研究科オリエンテーションにおいて強く推奨している。(別添資料 7512-i3-8) (再掲) [C.2]

<選択記載項目D 技術者教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科では、2010年度から大学院生を対象とした農業技術経営管理学コース（副コース）を開講している。本コースは、農学の科学的な知識と高度な技術を身につけ地域農業の生産基盤を継承し、その持続的かつ効率的な利用を図り、地域農業の維持と発展に貢献できるリーダー的農業者、将来のビジネスチャンスに向けて農業経営と農村地域の革新を担う経営者、あるいは農業関連分野への新規参入を目指す企業人等の育成を目的としている。また最近では、農業のグローバル化への対応、農業経営規模の拡大と法人化、農業後継者の確保、農業・農村の6次産業化、企業等による農業分野への参入等を視野に入れ、韓国農学系三大学及び東京農業大学大学院生物産業学研究科との教育・研究面における緊密な連携に基づいて、継続的・体系的な教育システムの構築を推進している。今までの修了者数は、2016年度から2019年度までそれぞれ1名、3名、3名、2名であった。（別添資料7512-iB-2～3）（再掲） [D.1]

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料7512-iE-1）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科では、2010年度から社会人を対象とした「農業技術経営管理士」育成講座を開講している。本講座は、農業版のMOT（Management of Technology）として農学の科学的な知識と高度な技術を身につけ地域農業の生産基盤を継承し、その持続的かつ効率的な利用を図り、地域農業の維持と発展に貢献できるリーダー的農業者、将来のビジネスチャンスに向けて農業経営と農村地域の革新を担う経営者、あるいは農業関連分野への新規参入を目指す企業人等の育成を目的としている。また最近では、農業のグローバル化への対応、農業経営規模の拡大と法人化、農業後継者の確保、農業・農村の6次産業化、企業等による農業分野への参入等を視野に入れ、韓国農学系三大学並びに東京農業大学大学院生物産業学研究科との教育・研究面における緊密な連携に基づいて、継続的・体系的な教育システムの構築を推進している。今までの修了者数は、2016年度から2019年度までそれぞれ3名、12名、5名、5名であった。（別添資料7512-iB-2～3）（再掲） [E.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7512-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7512-ii1-1）
（再掲）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科の修了生は多くの研究成果を公表している。2016～2018年度の修了生総数は128名であったのに対して、研究発表の総数は366件、論文発表数は99報、また発表が評価されて授与された賞の件数は31件であった。（別添資料 7512-ii1-2）

[1.3]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○農学研究科においては、多様なキャリアパスの提示、企業とのマッチング、各種インターンシップの実施により、学生の就職支援を行っている。その結果、修了生の主な就職先は、食料品・飲料・たばこ・飼料製造業を中心に、情報通信業、製造業、化学工業・石油・石炭製品製造業、建設業や農業・林業となっている。また、修了生のうち博士後期課程への進学者数は、2016年度から2019年度にかけて2名、3名、4名、1名であった。（別添資料 7512-ii2-1～2） [2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 7512-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士2年生（修了予定者）対象の共通アンケートを行っている。2018年度の集計結果によると、「修了認定の基準」「研究指導実施報告書を活用した研究や論文作成指導」に対する理解度が高く（4.33、4.05）、「パソコンの数量」「自習スペース」に対する満足度が高かった（4.06、4.05）。習熟度については、「専門的な知識や技能」「分析し批判する能力」「コミュニケーション能力（対人関係）」「プレゼンテーション技術」「資料や報告書を作成する能力」「研究能力」「課題を探究する能力」「問題を解決する能力」についての自己評価が高かった（4.33、4.05、4.05、4.24、4.48、4.10、4.14、4.19）。一方で「成績評価が担当者から提供されること」「ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいかを理解出来たか」「シラバスが科目選択の参考になったか」という項目において、理解や評価が低い結果（2.48、1.81、2.00）となった。（別添資料 7512-iiA-1）（再掲）[A.1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7512-iiB-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学研究科改組にあたって、インターネット上またはアンケート用紙の送付により2016年度に行った卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取結果においては、専門的な知識や技術と共に、それらを実践に活かす能力等の項目に対して満足度が高くなっていた。（別添資料 7512-iiB-1）（再掲）[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7512-iiC-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学研究科改組にあたって、合同企業説明会へ参加した企業（採用者）に対して2016年度に行った企業アンケートの結果では、農学部卒業生及び農学研究科修了生について、1. 基本的な理解力、思考力、判断力、2. 日本語によるコミュニケーション、3. 知識や情報を収集し、適切に活用・管理、4. 専門分野の基本的な知識・技法を

佐賀大学農学研究科 教育成果の状況

習熟、5. 専門分野の知識・技法を応用し課題を解決、6. 他者との協調・協働により課題を解決、7. 持続的に学習し主体的に行動する意欲、8. 倫理観、規範意識、社会的責任感、などの質問項目に関しては高い満足度が得られていた。一方、9. 課題を多面的に考察し、解決方法を見出す、や10. 国際コミュニケーション能力と異文化理解能力、などに関する質問項目では満足度が低いという結果になっていた。（別添資料 7512-iiC-1）（再掲）[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率
24		産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。